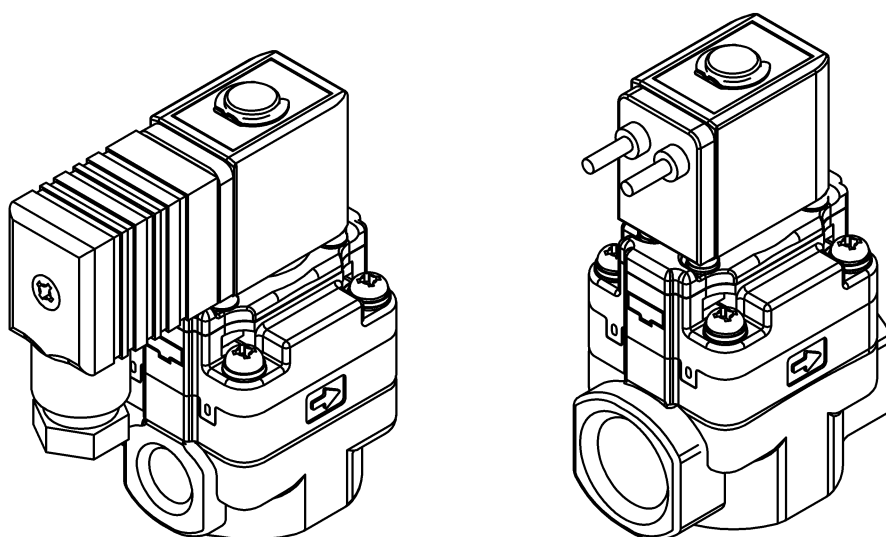


取扱説明書

水用パイロット式2ポート電磁弁 FWD シリーズ



- 製品をお使いになる前に、この取扱説明書を必ずお読みください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- この取扱説明書は必要な時にすぐ取り出して読めるように大切に保管しておいてください。

本製品を安全にご使用いただくために

当社製品を使用した装置を設計製作される場合には、装置の機械機構と空気圧制御回路または水制御回路とこれらをコントロールする電気制御によって運転されるシステムの安全性が確保できる事をチェックして安全な装置を製作する義務があります。

当社製品を安全にご使用いただくためには、製品の選定及び使用と取扱い、ならびに適切な保安全管理が重要です。

装置の安全性確保のために、警告、注意事項を必ず守ってください。

なお、装置における安全性が確保できることをチェックして安全な装置を製作されるようお願い申し上げます。



1. 本製品は、一般産業機械用装置・部品として設計、製造されたものです。
よって、取扱いは十分な知識と経験を持った人が行ってください。

2. 製品の仕様範囲内でのご使用を必ずお守りください。

製品固有の仕様外での使用は出来ません。また、製品の改造や追加加工は絶対に行わないでください。

なお、本製品は一般産業用装置・部品での使用を適用範囲としておりますので、屋外での使用、および次に示すような条件や環境で使用する場合には適用外とさせていただきます。

(ただし、ご採用に際し当社にご相談いただき、当社製品の仕様をご了解いただいた場合は適用となりますが、万一故障があっても危険を回避する安全対策を講じてください。)

- ① 原子力・鉄道・航空・船舶・車両・医療機械・飲料・食品などに直接触れる機器や用途、娯楽機器・緊急遮断回路・プレス機械・ブレーキ回路・安全対策用など、安全性が要求される用途への使用。
- ② 人や財産に大きな影響が予想され、特に安全が要求される用途への使用。

3. 装置設計・管理等に関わる安全性については、団体規格、法規等を必ずお守りください。

ISO4414, JIS B 8370 (空気圧システム通則)

JFPS2008 (空気圧シリンダの選定及び使用の指針)

高圧ガス保安法、労働安全衛生法およびその他の安全規則、団体規格、法規など

4. 安全を確認するまでは、本製品の取扱いおよび配管・機器の取り外しを絶対に行わないでください。

- ① 機械・装置の点検や整備は、本製品に関わる全てのシステムにおいて安全であることを確認してから行ってください。
- ② 運転停止時も、高温部や充電部が存在する可能性がありますので、注意して行ってください。
- ③ 機器の点検や整備については、エネルギー源である供給空気や供給水、該当する設備の電源を遮断し、システム内の圧縮空気は排気し、水漏れ・漏電に注意して行ってください。
- ④ 空気圧機器を使用した機械・装置を起動または再起動する場合、飛び出し防止処置等システムの安全が確保されているか確認し、注意して行ってください。

5. 事故防止のために必ず、次頁以降の警告及び注意事項をお守りください。

■ここに示した注意事項では、安全注意事項のランクを「危険」「警告」「注意」として区別してあります。



危険

: 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定され、かつ危険発生時の緊急性(切迫の度合い)が高い限定的な場合。



警告

: 取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う危険を生じることが想定される場合。



注意

: 取り扱いを誤った場合に、軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合。

なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

保証に関する注意事項

● 保証期間

当社製品の保証期間は、貴社のご指定場所への納入後 1 年間といたします。

● 保証範囲

上記保証期間中に明らかに当社の責任と認められる故障を生じた場合、本製品の代替品または必要な交換部品の無償提供、または当社工場での修理を無償で行わせていただきます。

ただし、次の項目に該当する場合は、この保証の対象範囲から除外させていただきます。

- ① カタログまたは仕様書に記載されている以外の条件・環境での取扱いならびにご使用の場合
- ② 故障の原因が本製品以外の事由による場合
- ③ 製品本来の使い方以外の使用による場合
- ④ 当社が関わっていない改造または修理が原因の場合
- ⑤ 納入当時に実用化されていた技術では予見できない事由に起因する場合
- ⑥ 天災、災害など当社の責でない原因による場合

なお、ここでいう保証は、納入品単体に関するものであり、納入品の不具合により誘発される損害については除外させていただきます。

● 適合性の確認

お客様が使用されるシステム、機械、装置への当社製品の適合性は、お客様自身の責任でご確認ください。

【 目次 】

1. 包装の解き方	4
2. 設置方法	
2. 1 設置環境	4
2. 2 設置方法	5
2. 3 配管方法	5
2. 4 配線方法	8
3. 使用前の確認（施工後の確認）	
3. 1 外観の確認	10
3. 2 漏れの確認	10
3. 3 電気の確認	10
4. 適切な使用方法	
4. 1 使用上の注意	11
4. 2 分解・組立	12
5. 保守	
5. 1 保守・点検	14
6. 故障と対策	15
7. 製品仕様および形番表示方法	
7. 1 製品仕様	16
7. 2 形番表示方法	16
8. 内部構造図	17

1. 包装の解き方



注意

配管実施寸前まで包装袋は、外さないでください。
包装袋を配管接続作業以前に外すと、配管ポートから異物が内部に入り、故障、誤作動などの原因になります。

- (1) ご注文の製品形番と製品銘板の形番が同一であることを、確認してください。
- (2) 外観に損傷を受けていないことを、確認してください。
- (3) 保管時は、製品の内部に異物が入らないように個装箱のまま保管していただき、配管時に箱から取り出してください。

2. 設置方法



警告

指定仕様外での使用、特殊な用途の場合には、仕様についてご相談ください。

2.1 設置環境



警告

- a) 防爆雰囲気では使用できません。
・防爆雰囲気で使用される場合は、防爆用電磁弁かエア駆動式バルブの中から選定ください。
- b) AC電圧で使用いただく場合、使用条件によりうなり音が発生する場合があります。
・使用環境によりうなり音が問題となる場合は、DC電圧を選定してください。
- c) 腐蝕性ガスおよび構成材料を侵すような雰囲気では使用しないでください。
- d) 発熱体の近くまたは輻射熱を受ける場所では使用しないでください。
- e) 仕様周囲温度範囲内で使用ください。
- f) 流体が凍結すると、製品が破損する場合があります。適切な凍結防止策を行ってください。
電磁弁に断熱材を施工する場合にはコイル部には施工しないでください。コイル焼損の要因になります。
- g) 雨、水、直射日光や紫外線が直接照射される場所を避けて設置してください。
屋外では使用できません。
- h) 油・溶接時のスパッタなどがかかる場所では適切な防護対策を施してください。



注意

- a) 振動のない場所に取付けて使用してください。

2. 2 設置方法

2.2.1 取付



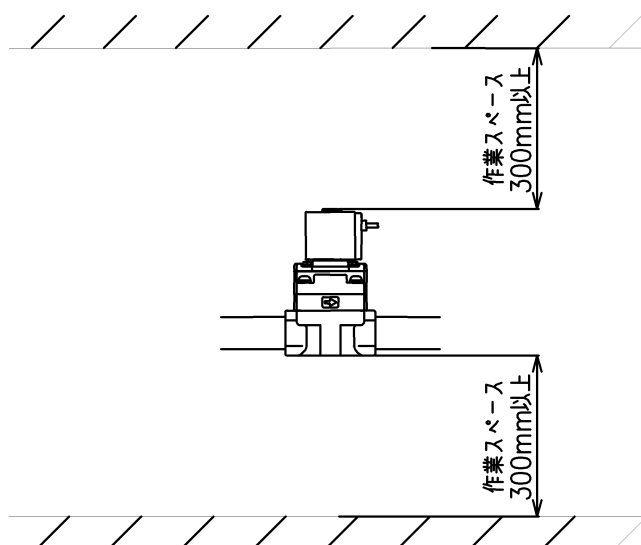
注意

- a) 取扱説明書は、よく読んで内容をご理解の上製品を取付けてください。
- b) 製品の取扱い・取付は必ずメインボディ(金属部)をつかんで行ってください。コイル部に外力を加えないでください。
- c) コイル部リード線に引張力がかからないように設置してください。
- d) 製品を運ぶ際には、製品本体を持ってください。リード線を持ってぶら下げる持ち方はしないでください。
- e) 取付後、配管漏れの有無を確認して正しい取付けがなされているかご確認ください。

- (1) 据付け姿勢は自由です。

2.2.2 保守スペース

- ・ 保守およびトラブルシュート時の安全作業を考慮して、
十分なスペースを確保してください。



(図2-1)

2. 3 配管方法



注意

- a) 配管の締付け及び配管をやり直す時は、製品を固定して行ってください。固定は必ずメインボディ(金属部)をつかんでください。樹脂部をつかむと破損する場合があります。
- b) 配管の重量、振動がバルブに直接加わらないよう配管の固定、支持をしてください。
- c) 配管接続時には推奨トルク(表 2 - 2 参照)で締付けてください。
- d) 配管のねじ長さは、有効ねじ長さを守ってください。また、ねじ先端より半ピッチ程度は面取り仕上げしてください。
- e) 配管の前に 0.3MPa 以上のエアでフラッシングを行い、ゴミ・金属粉・錆・シールテープなどの異物を除去してください。
- f) 配管時に使用するシール剤(シールテープ、ゼリー状シール剤)を過度に使用しますと、製品内部に入り込み、作動不良の原因となります。
- g) シール剤を配管材などに塗布・巻く場合は、管端からねじ部を 1.5 山～2 山残して塗布・巻いてください。



注意

- h) 流体中のゴミ、異物は製品の正常な機能を妨げます。
製品の手前に 80 メッシュ以上のストレーナ(フィルタ)を設置してください。
- i) 製品に配管を接続する場合、供給ポートなどを間違えないようにしてください。
- j) 保守・補修作業を容易にするためにバイパス回路を設置するとともに、ユニオンを使用して配管してください。
- k) タンク内の流体を制御する場合は、タンクの底から少し上の位置に配管してください。
- l) レギュレータと電磁弁を直結しますと相互に振動しあい、共振状態となりチャタリングを生じることがあります。
- m) 流体供給側の配管断面積が絞られていると弁作動時の差圧不足によって作動が不安定になります。流体供給側の配管に合致した接続口径の製品を使用してください。

(1) 配管材の清掃

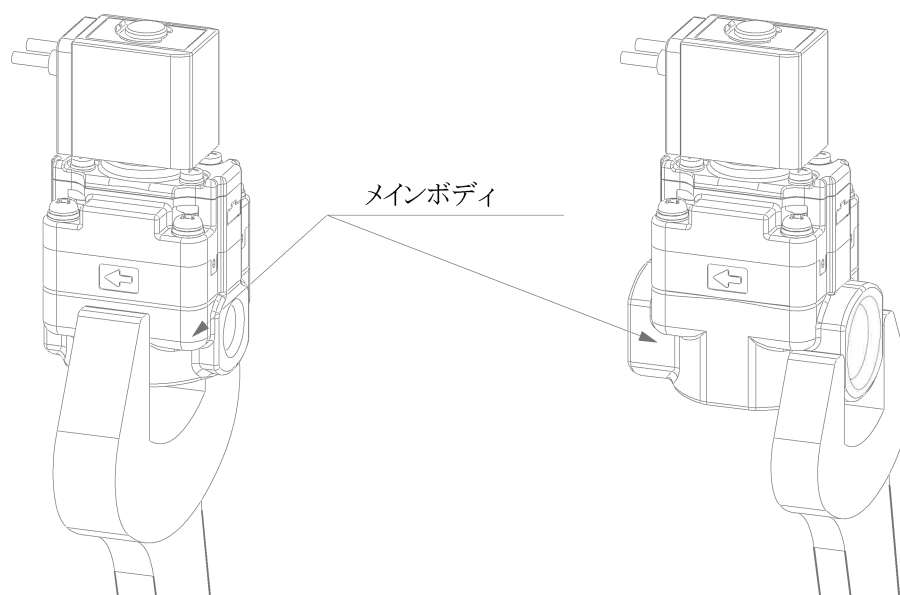
- ・ 配管の前に 0.3MPa 以上のエアでフラッシングを行い、ゴミ・金属粉・錆・シールテープなどの異物を除去してください。

(2) 異物の除去

- ・ 流体中のゴミ・異物などは、作動不良や弁座漏れの原因となります。製品の直前には、80メッシュ以上のストレーナ(フィルタ)を取り付けてください。

(3) 配管

- ・ 配管はメインボディ(金属部)をつかんで行ってください。樹脂部はつかまないでください。

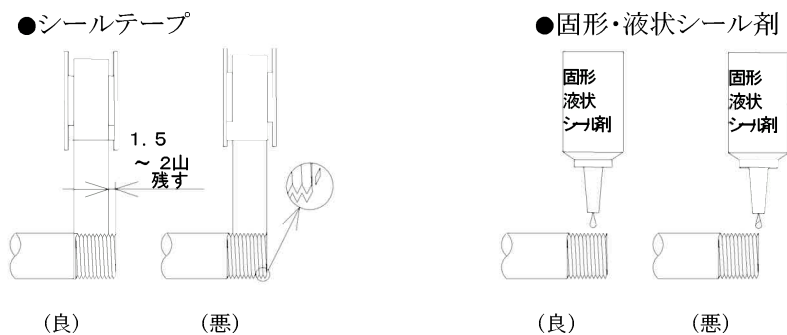


(図2-2)

- ・ 製品の固定方法は、配管支持またはボディ底面のねじ穴にて固定してください。
- ・ タンク内の流体を制御する場合は、タンクの底から少し上の位置に配管してください。

(4) シール剤

- シール剤の使用については、配管内に入り込まないように充分注意するとともに、外部漏れのないようにしてください。ねじ部にシールテープを巻く時は、ねじの先端を1.5～2山残して巻き付けてください。(図2-3) 液状シール剤を使用する時も、ねじの先端を1.5～2山残して多すぎないように塗布してください。製品のめねじ側へは、塗布しないでください。



(図2-3)

(5) 締め付け

- 配管時の締め付けトルクは、表2-2, を参考にしてください。

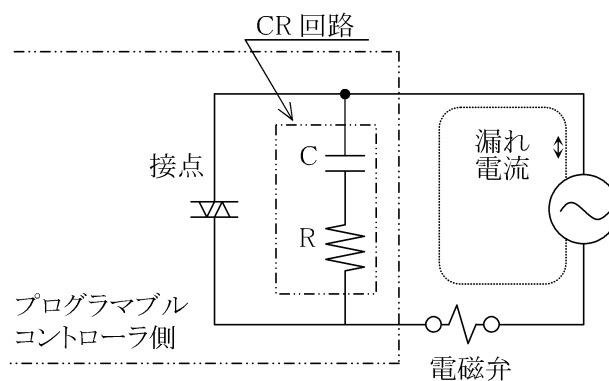
表2-2 メインポート配管締め付けトルクの推奨値

配管の呼び径	配管締め付けトルクの推奨値
Rc1/4	23～ 25[N・m]
Rc3/8	31～ 33[N・m]
Rc1/2	41～ 43[N・m]
Rc3/4	62～ 65[N・m]
Rc1	83～ 86[N・m]

2. 4 配線方法



- a) 許容電圧範囲で使用してください。許容電圧範囲外でのご使用は作動不良やコイル損傷の原因となります。
- b) 電気設備の保全のために、制御回路側にはヒューズなどの遮断器を使用してください。
- c) 電気回路系がソレノイドのサージを嫌う場合は、サージキラー付(オプション)をご使用いただくか、サージアブソーバなどをソレノイドに並列に入れてください。
- d) 配線用電線は、目安として公称断面積0.5mm²以上を使用してください。
- e) 接点チャタリングの発生しないスイッチング回路の採用は、電磁弁の耐久性をより長くします。
- f) プログラムコントローラなどで電磁弁を作動させる場合には、プログラムブルコントローラ等の出力の漏れ電流が下記の仕様に入っていることをご確認ください。誤作動につながります。



定格電圧	漏れ電流	
AC100V	8～15A	3mA以下
	20～25A	6mA以下
AC200V	8～15A	1.5mA以下
	20～25A	3mA以下
DC24V	1mA以下	

(1) リード線タイプの結線方法

本製品は下記のリード線を使用しております。

圧着をする場合は、適切な圧着条件にて圧着し、確実な絶縁処理を実施ください。

導体サイズ	絶縁体外径
AWG20	φ 2.6mm

本製品は、DCの場合も極性はありません。

(2) DIN 端子箱タイプの結線方法

・キャブタイヤコードは下記のものを使用してください。

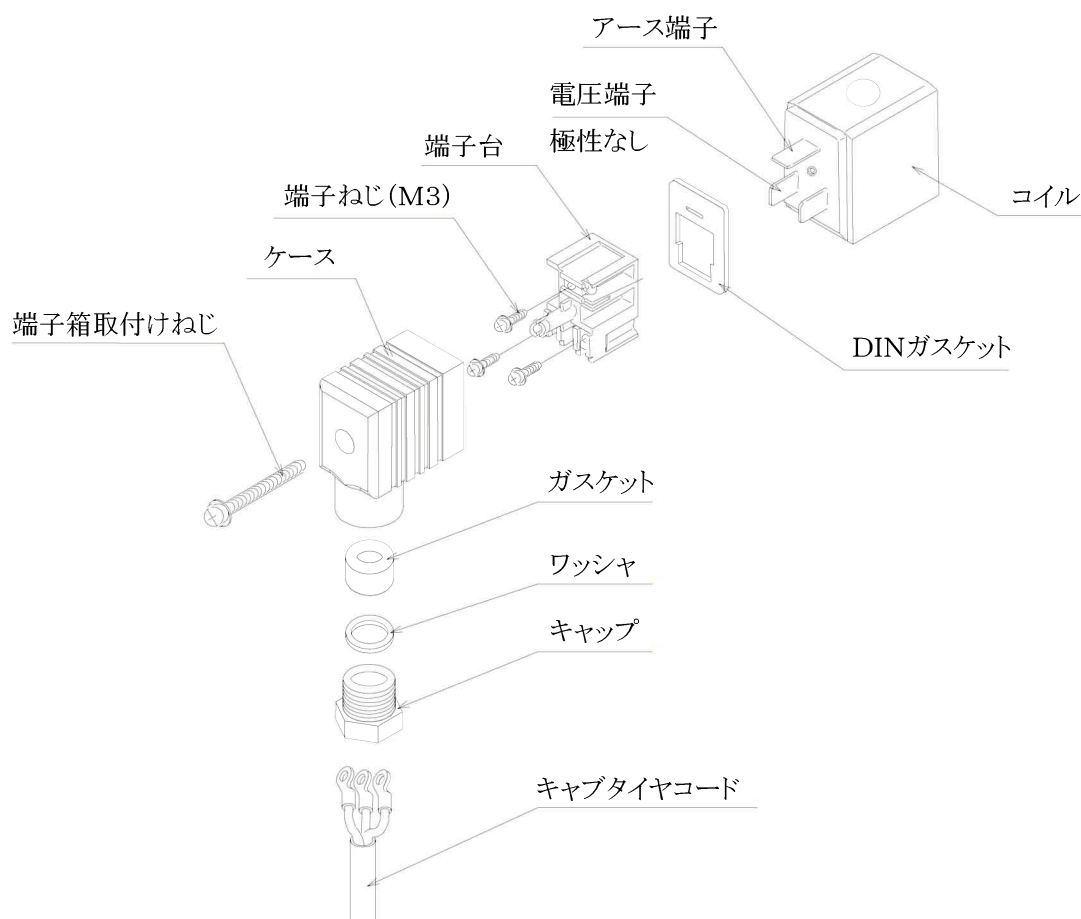
DIN 端子箱	コード外径	公称断面積
Pg9	φ 4.5～φ 7mm	0.75mm ²
Pg11	φ 6～φ 10mm	0.75～1.5mm ²

・キャブタイヤコードのリード線に銅線用圧着端子を圧着してください。

端子箱の端子ねじサイズは、M3です。

・ねじの締付けトルクは下記のトルクで締付けてください。

端子箱取付けねじ	端子ねじ
0.5Nm	0.5Nm



(図2-4)

- ①キャブタイヤコードにキャップ、ワッシャ、ガスケットの順に通し、ケースに挿入してください。
- ②端子台の1, 2に結線してください。極性はありません。アース線はアース端子に結線してください。
- ③端子台をケースにセットしてください。(パチンと音がするまで押込んでください。)

端子台は、Pg9の場合は180°、Pg11の場合は90° ごとに向きを変えることができます。

コードの取出し向きに合わせて、ケースにセットしてください。
- ④ガスケット、ワッシャをケースに納め、キャップを締め込んでください。

コードが抜けなことを確認してください。
- ⑤DINガスケットが入っていることを確認し、コイルに端子箱を差込み、端子箱取付けねじを締めてください。

3. 使用前の確認(施工後の確認)

3.1 外観の確認

 警告	流体の流れを止めてください。(元栓を閉じる) 製品内の流体を排気してください。 電源を切ってください。
---	---

- (1) 製品が配管に確実に固定されていることを手で押して確認してください。
- (2) 配管が確実にされていることを確認してください。
- (3) ねじ部品がゆるんでいないことを確認してください。
- (4) 配線に間違いがないことを確認してください。

3.2 漏れの確認

- (1) 流体を加圧状態にして、接続部の漏れを確認してください。
漏れの確認は、圧縮空気(0.3~0.5MPa)を供給して、石鹼液を塗布し、気泡発生の有無で確認することをお奨めします。

3.3 電気の確認

 警告	電源を切ってください。 感電に十分注意の上、確認を行ってください。
---	--------------------------------------

- (1) 電源電圧を確認してください。
電圧変動は、定格電圧の±10%の範囲内でご使用ください。
許容電圧範囲外でのご使用は作動不良やコイル損傷の原因となります。
- (2) 絶縁抵抗の確認
製品に組みつけられたねじ部品などの非充電金属部と、リード線などの充電金属部間の絶縁抵抗を測定してください。
DC1000Vメガーにて、100MΩ以上であることを確認してください。

4. 適切な使用方法

4.1 使用上の注意

 警告	a) 緊急遮断弁などには使用できません。 - 緊急遮断弁などの安全確保用バルブとして設計されておりません。そのようなシステムの場合は、別の確実に安全確保できる手段を講じた上で、ご使用ください。 b) 本製品が故障した際に人や物等に悪影響を与えないよう、予め必要な措置を施してください。 c) 液封について - 液体を流す場合、液封の回路になると温度変化により圧力が上昇し、作動しないことがあります。システム上に逃し弁を設け、液封の回路にならないようにしてください。 d) 使用流体について - 水以外の流体を使用しないでください。 - バルブ作動時に内部部品が磨耗することにより、磨耗粉が発生し、バルブ2次側に流れる場合がありますのでご注意ください e) 流体中の鉄錆・ゴミの異物は、作動不良・漏れ不良の原因となり製品性能を妨げますので、排除する手段を講じた上で使用してください。 f) 仕様流体温度範囲内で使用してください。 g) 仕様周囲温度範囲内で使用してください。 c) 通電時、通電直後はコイル部に手や体を触れないでください。 電磁弁のコイル部は、電気を通電すると発熱します。直接触れると火傷する場合がありますので、ご注意ください。 h) 通電時、電気配線接続部(裸充電部)に手や体を触れないでください。感電の恐れがあります。 i) 最高使用圧力内で使用してください。
 注意	a) 仕様圧力差範囲内で使用してください。 b) 瞬時漏れ現象について パイロット式2ポート弁において、弁閉状態にある時ポンプ起動等により急激に圧力が加わった場合に、瞬間的に弁が開き流体が漏れる場合がありますので、使用の際にはご注意願います。 c) 逆圧を加えないでください。作動不良となる場合があります。 d) ウォータハンマについて ウォータハンマが生じて問題のある場合は弊社の「WHL形」「RSV形」電磁弁かモータバルブをご検討ください。 e) 圧力差について 弁開状態での1次側と2次側の圧力差が0.02MPaを下回らない圧力設定をするようにご注意ください。 下記のような場合には、圧力差が生じにくくなります。 2次側に絞り(ノズル等)を取付けた場合 - 複数の電磁弁を並列に配管接続した状態で、同時に弁開した場合 f) 製品を足場にしたり、重量物を載せたりしないでください。 g) 1ヶ月以上未使用の場合は、始業前に試運転を行ってください。 h) 1ヶ月以上使用しない場合は、内部に残留している水を完全に除去してください。水が残留していると錆が発生し作動不良・漏れ不良が生じることがあります。 残留水の除去ができない場合は、最適にご使用いただくため、1日数回程度作動させ通水してください。 i) 連続通電、低頻度でご使用の場合は、弊社までご相談ください。 j) ストレーナ(フィルタ)の目詰まりに注意してください。

(1) 異常が発生した場合は、『6. 故障と対策』を参照してください。

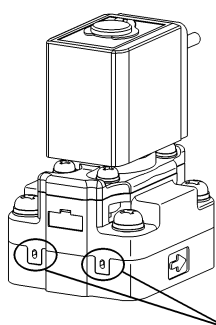
4. 2. 1 分解・組立



- a) バルブボディとメインボディの組立向きには方向性があります。それぞれのボディに表示された矢印の方向を合わせて組立てください。
- b) バルブボディとスタフィングの組立向きには方向性があります。特定方向でしか組立できないようになっています。
- c) 分解・再組立後は試運転を実施し、作動・漏れ性能に異常がない事を確認してください。

(1) 分解手順 ※分解図・部品名は、13頁の図4-3を参考にしてください。

- ①クリップを外すと、②銘板～⑤波ワッシャが外れます。(④押さえ板取付けねじは除く)
- ④押さえ板取付けねじを外すと、⑪スタフィング組立から⑥押さえ板～⑨Oリングが外れます。
- ⑩ボディ取付けねじを外すと、⑬メインボディから⑪スタフィング組立～⑮ガスケットが外れます。ただし、⑪スタフィング組立と⑭バルブボディは仮組状態となっています。⑪スタフィング組立と⑭バルブボディを引張って外してください。この時、⑫主弁ばねの紛失に注意してください。



⑪スタフィング組立の爪部が⑭バルブボディに引掛かった構造になっています。(4箇所)

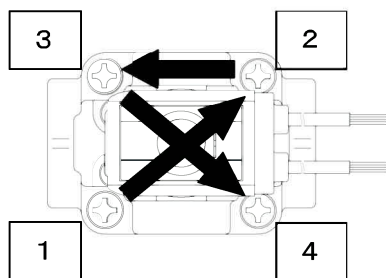
(図4-1)

(2) 組立手順

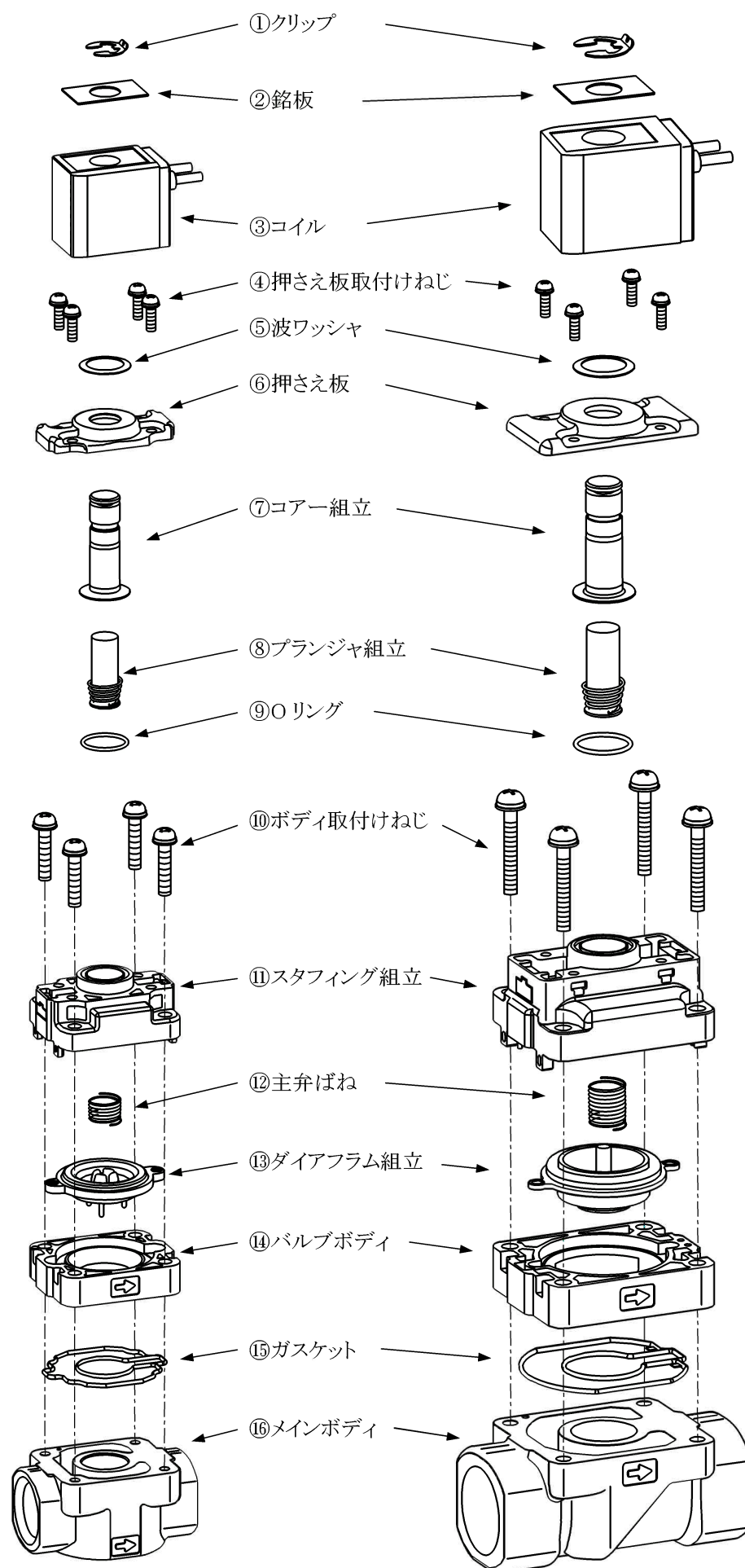
- 分解と反対の手順で組立てください。
- ⑭バルブボディと⑬メインボディの組立向きには方向性があります。それぞれのボディに表示された矢印の方向を合わせて組立てください。
注) 8～15A黄銅ボディのみ底面に矢印の表示があります。
- ⑪スタフィング組立と⑭バルブボディの組立向きには方向性があります。特定の向きでのみ組立られます。
- ⑮ガスケットが⑭バルブボディの溝に確実に入っていることを確認してください。
- ④押さえ板取付けねじ及び⑩ボディ取付けねじは4本を仮締めした後、表4-1の締め付けトルクにて対角のねじを均等に締め付けてください。

表4-1 ねじ締め付けトルクの推奨値

ねじ	締め付けトルク(N・m)
押さえ板取付けねじ(M3)	0.63～0.77
8～15A : ボディ取付けねじ(M4)	0.81～0.99
20～25A: ボディ取付けねじ(M5)	1.5～1.8



(図4-2)



8~15A (モデルは15A)

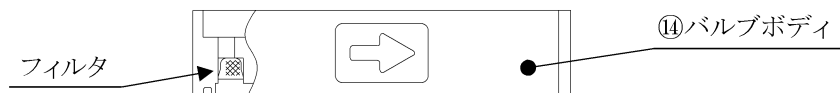
20~25A (モデルは25A)

(図4-3)

4. 2. 2 フィルタの清掃

バルブの作動に異常が生じた場合は、フィルタの詰まりの可能性があります。

⑭バルブボディにフィルタが組込まれており、フィルタに詰まりがある場合は、清掃を行ってください。
分解、組立方法については、4. 2. 1項を参照してください。



(図4-4)

5. 保守

5. 1 保守・点検



注意

保守する前には、必ず電源を切り、流体および圧力を抜いてください。

- (1) 保守、点検時は取扱説明書をよく読んで内容をご理解の上、作業を行ってください。
- (2) 本製品を最適状態でご使用いただくために、定期点検を通常、半年に1回おこなってください。
- (3) 1ヶ月以上未使用の場合は、始業前に試運転を行ってください。
- (4) 点検内容は『3. 使用前の確認』を参照ください。
- (5) フィルタの清掃について

この製品にはフィルタが組込まれています。

このフィルタは異物除去の目的ではなく、突発的な異物に対処するためのものです。

製品に異物が混入しないよう、製品の直前には80メッシュ以上のストレーナ(フィルタ)を取り付けて使用してください。

製品に組込まれたフィルタが詰まりますと電磁弁を非通電にしても弁が閉じないもしくは閉じる時間が長くなります。

詰まりが確認されましたら、フィルタの清掃をしてください。

異常に気付いたら『6. 故障と対策』を参照ください。

6. 故障と対策

(1) 停電時や、作動異常等の緊急時は点検操作を行なってください。

(2) 製品が使用目的通りに作動しない場合は、下表に従い点検をおこなってください。

故障の状態	原因	処置
弁が開かない	電気が通電されていない。	配線・ヒューズなどを確認し、電源を入れてください。
	電源電圧が定格電圧以下である。	電源を確認して、定格電圧を入力してください。
	流体圧力が仕様の圧力範囲外である。	仕様圧力範囲内に調整してください。
	流路部に異物が詰まっている。	製品内部を分解・清掃してください
	アクチュエータ部に異物が噛み込んでいる。	製品内部を分解・清掃してください
	ダイヤフラムが破損している。	製品を交換してください。
弁が閉じない	電気が切れていない。	漏洩電流などを確認し、電源を確実に切断する回路に修正してください。
	流体圧力が仕様圧力範囲外である。	仕様圧力範囲内に調整してください。
	弁座に異物が挟まっている。	製品内部を分解・清掃してください
	アクチュエータ部に異物が噛み込んでいる。	製品内部を分解・清掃してください
	ダイヤフラムが破損している。	製品を交換してください。
	フィルタが詰まっている。	フィルタを清掃してください。
外部漏れ	ダイヤフラムが破損・変形している。	製品を交換してください。
	ガスケットが破損・変形している。	製品を交換してください。
内部漏れ	使用圧力が仕様圧力範囲外である。	仕様圧力範囲内に調整してください。
	ボディの弁座に摩耗・傷がある。	製品を交換してください。
	ダイヤフラムのシール面に摩耗・傷がある。	製品を交換してください。
	弁座部に異物が挟まっている。	製品内部を分解・清掃してください

(3) その他、不明な点は、弊社営業所または販売代理店へご相談ください。

7.製品仕様および形番表示方法

7.1 製品仕様

項 目	FWD11-8A	FWD11-10A	FWD11-15A	FWD11-20A	FWD11-25A
作動方式	NC(通電時開)形				
使用流体	水(汚水・農薬用水・液肥・不凍液は除く)				
作動圧力差MPa	0.02～0.7				
最高使用圧力MPa	0.7				
耐圧力(水圧にて)MPa	1.05				
流体温度℃	5 ～ 60 (凍結のないこと)				
周囲温度℃	－10 ～ 60 (流体の凍結のないこと)				
雰囲気	腐食性ガス・爆発性ガスのない場所				
弁構造	パイロット式ボベット構造 ダイアフラム駆動				
弁座漏れcm ³ /min	0(水圧にて)(注1)				
取付姿勢	自在				
保護構造	IPX5				
接続口径	Rc1/4	Rc3/8	Rc1/2	Rc3/4	Rc1
オリフィス径mm	15 (注2)			22 (注2)	
Cv値	2.8	4.2	6.0	11.0	12.0
質量g	340	320	390	730	950
定格電圧	AC100V50/60Hz、AC200V50/60Hz、DC24V				
電圧変動範囲	定格電圧 ± 10%				
皮相電力VA	保持時(50/60Hz)：5/4、起動時(50/60Hz)：9/8			保持時(50/60Hz)：9.5/7、起動時(50/60Hz)：23/20	
消費電力W	AC(50/60Hz)：2.7/2、DC：4			AC(50/60Hz)：4/3.2、DC：4	
コイル耐熱クラス	クラス 130(B)				

注1 : 弁座漏れ0cm³/minとは、1分間に水滴が出てこないことを示します。

注2 : オリフィス径とは、弁座部の径を示します。

7.2 形番表示方法

FWD11 - 15 A - 0 2GS B - AC100V

機種形番

① 接続口径

② ねじ種類

③ ボディ・シール材質組合せ

④ コイルオプション



形番選定にあたっての注意事項

注1 : 接続口径8、10、15の場合は、Pg9、20、25の場合はPg11になります。

注2 : 定格電圧は、AC110V50/60HzおよびAC220V50/60Hzも対応いたしますのでお問合せください。

〈形番表示例〉

FWD11-15A-02GSB-AC100V

① 接続口径

: 1/2

② ねじ種類

: Rcねじ

③ ボディ・シール材質組合せ : 黄銅・PPS、NBR

④ コイルオプション : DIN端子箱・サージキラー付(Pg9)

⑤ 取付板

: 取付板付

⑥ 定格電圧

: AC100V 50/60Hz、AC110V 60Hz

⑦ 取付板

⑧ 定格電圧

注2

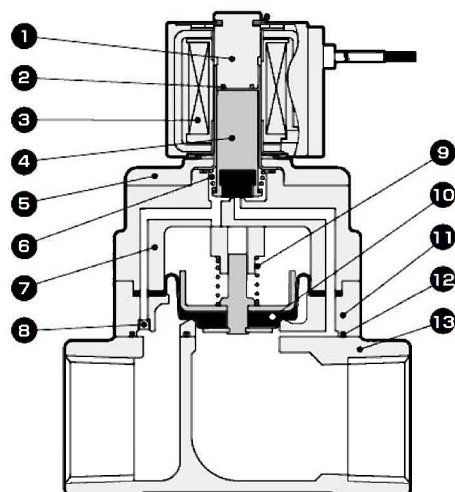
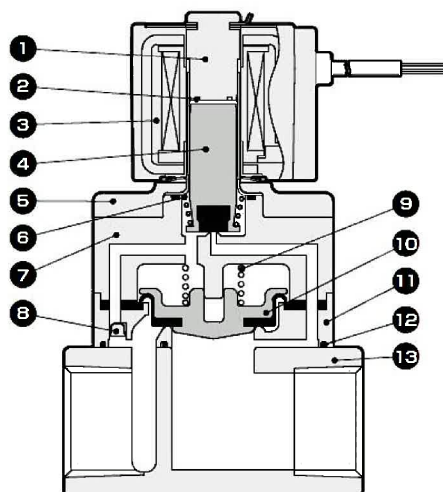
記号		内 容	
① 接続口径			
8	1/4		
10	3/8		
15	1/2		
20	3/4		
25	1		
② ねじ種類			
A	Rcねじ		
G	Gねじ		
N	NPTねじ		
③ ボディ・シール材質組合せ			
	ボディ	シール	
0	黄銅(接続口径 : 8、10、15)	・PPS	NBR
B	青銅(接続口径 : 20、25)		FKM
D	ステンレス・PPS		NBR
E			FKM
④ コイルオプション			
2C	グロメットリード線		
2CS	グロメットリード線・サージキラー付		
2G	DIN端子箱付		(注1)
2GS	DIN端子箱・サージキラー付		(注1)
2H	DIN端子箱・ランプ付		(注1)
2HS	DIN端子箱・ランプ・サージキラー付		(注1)
⑤ 取付板			
無記号	なし		
B	取付板(接続口径 : 8、10、15のみ対応)		
⑥ 定格電圧			
AC100V	AC100V 50/60Hz、AC110V 60Hz		
AC200V	AC200V 50/60Hz、AC220V 60Hz		
DC24V	DC24V		

8. 内部構造図

内部構造および部品リスト

● FWD11-8・10・15

● FWD11-20・25



品番	部品名称	材 質		品番	部品名称	材 質	
1	コア組立	SUS	ステンレス	8	フィルタ	SUS	ステンレス
2	シェーディングコイル※1	Cu(ボディステンレス時: Ag)	銅(ボディステンレス時: 銀)	9	弁ばね	SUS	ステンレス
3	コイル	—	—	10	ダイヤフラム組立	接続口径: 8、10、15 : PPS・NBR(FKM)	ポリフェニレンサルファイド・ニトリルゴム(フッ素ゴム)
4	プランジャ	SUS・NBR(FKM)	ステンレス、ニトリルゴム(フッ素ゴム)	11	バルブボディ	接続口径: 20、25: SUS・NBR(FKM)	ステンレス・ニトリルゴム(フッ素ゴム)
5	押さえ板	PPS	ポリフェニレンサルファイド	12	ガスケット	PPS	ポリフェニレンサルファイド
6	プランジャばね	SUS	ステンレス	13	メインボディ	NBR(FKM)	ニトリルゴム(フッ素ゴム)
7	スタフティング組立	PPS・SUS・NBR(FKM)	ポリフェニレンサルファイド・ステンレス・ニトリルゴム(フッ素ゴム)			接続口径: 8、10、15: C3771(SCS13)	黄銅(ステンレス)
						接続口径: 20、25: CAC408(SCS13)	青銅(ステンレス)

()内はオプション

※1: DCコイルの場合、シェーディングコイルは使用されません。

注: ねじ材質は、鋼になります。